

愛臨技学術部研究班活動報告

所属：血液研究班 提出日：平成 30 年 5 月 21 日 報告者：川崎 達也

| | | | | |
|----------|--|----------------|-----------|-----------|
| 行事種別 | 研究会 | 行事番号 | 180001077 | |
| 開催日 | 平成 30 年 5 月 19 日 (土) | | | |
| 時間 | 開始 | 15 時 00 分 | 終了 | 17 時 00 分 |
| 場所 | リップルスクエア アーバンネット名古屋ビル 20F (所在地 名古屋市) | | | |
| テーマ | 症例検討会 (貧血編) | | | |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科 20 点 | | | |
| 司会 | JA 愛知厚生連江南厚生病院 川崎 達也 技師 | | | |
| 講師 | 【貧血総論】 | JA 愛知厚生連豊田厚生病院 | 酒巻 尚子 | 技師 |
| | 【症例 1】 | 愛知医科大学病院 | 寺島 舞 | 技師 |
| | 【症例 2】 | グッドライフデザイン | 加藤 太一 | 技師 |
| | 【症例 3】 | 名古屋大学医学部附属病院 | 山本 ゆか子 | 技師 |
| 内容 | <p>▶症例検討に先立ち H29 年度 2 月研究会のアンケート集計の結果報告を行った。</p> <p>▶今回の研究会では貧血の症例検討ということで初めに『貧血の総論』の講義を行った後に準備した 3 症例の検討を行った。以下に症例検討の流れを示す。</p> <p style="text-align: center;"><症例検討の流れ></p> <p>①参加者への症例データ提示し検査値を見てもらう (5 分)</p> <p>②講師は参加者に質問 (検査異常値、追加すべき検査、推測される貧血等) を交え症例の解説を行う (20 分)</p> <p>③会場への質疑応答を行う (5 分)</p> <p>▶貧血の総論では WHO 分類による貧血の基準、貧血の共通症状、貧血のメカニズム、MCV による貧血の分類、偽貧血に対しての注意ポイント等について解説を行った。</p> <p>症例検討では小球性低色素性貧血から慢性疾患に伴う貧血 (Anemia with Chronic Disease: ACD)、正球性正色素性貧血から寒冷凝集素症 (Cold Agglutination Disease: CAD) 大球性正色素性貧血から巨赤芽球性貧血 (Megaloblastic Anemia: MA) の 3 症例を準備し症例の解説を行った。</p> <p>▶今回は時間の都合上 3 症例ではあったが ACD では鉄欠乏性貧血、CAD ではその他の自己免疫性溶血性貧血、MA では骨髓異形成症候群など類似貧血との鑑別のポイント、病態のメカニズムなど詳細に解説を行ったため貧血の病態に対し理解が深まり臨床にデータを報告するうえでも役立つ大変有意義な研究会であった。</p> | | | |
| 参加者 | 総数：52 名 (会員 52 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、 その他 0 名) | | | |
| 共催、後援など | 無 | | | |

愛臨技学術部研究班活動報告

所属：血液研究班 提出日：平成 30 年 8 月 19 日 報告者：酒巻 尚子

| | | | |
|----------|--|-----------|--------------|
| 行事種別 | 講演会 | 行事番号 | 180007691 |
| 開催日 | 平成 30 年 8 月 18 日 (土) | | |
| 時間 | 開始 | 15 時 00 分 | 終了 17 時 00 分 |
| 場所 | 名古屋大学医学部基礎棟 3F 第 1 講義室 (所在地 名古屋市) | | |
| テーマ | 画像から見る造血管腫瘍 | | |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科 20 点 | | |
| 司会 | JA 愛知厚生連豊田厚生病院 | 酒巻 尚子 | |
| 講師 | <p>【講演 1】「PET-CT をみよう！ここが気になる PET-CT」</p> <p style="text-align: right;">JA 愛知厚生連豊田厚生病院 放射線科 柴田 貴行</p> <p>【講演 2】「検査所見から見る悪性リンパ腫診療の実際」</p> <p style="text-align: right;">名古屋大学医学部附属病院 医療技術部臨床検査部門 亀山なつみ</p> <p style="text-align: right;">名古屋大学医学部附属病院 血液内科 島田 和之</p> | | |
| 内容 | <p>今回の講演会は『画像から見る造血管腫瘍』をテーマとし、造血管腫瘍（悪性リンパ腫）の画像検査にフォーカスを置き講演会を行った。</p> <p>講演 1 では、放射線技師より PET-CT の基礎についてご講演頂いた。</p> <p>講演 2 では、血液内科の医師より悪性リンパ腫の総論、画像検査を含めたリンパ腫の診断と最新の治療薬についてご講演頂いた。講演 2 では複数の症例を提示し、参加者に検査データの解釈や病態を推測し答えてもらう参加型の講演会を行った。</p> <p><所感></p> <p>【講演 1】PET-CT を知るためには、CT と PET の知識がないと理解できないため、まずは CT と PET についての基礎知識を学んだ。特に CT 画像では、解剖像も詳細に提示して頂き画像上の臓器の見方を理解することができた。最後には、PET-CT について症例を提示しながら見方を伝授して頂いたため他職種領域の検査について深く学ぶことができた。</p> <p>【講演 2】症例検討では、血液検査データ及びフローサイトメトリー検査データを提示して参加者に検査データを読んでもらい推測される病態を答えてもらう会場参加型の講演会であったため、会場全体で一体感のあった講演会であった。普段では学ぶことのできない新規治療薬の動向、治療戦略について知見を得ることができ大変有意義な講演会であった。</p> | | |
| 参加者 | 総数：72 名（会員 70 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 2 名） | | |
| 共催、後援など | 無 | | |

愛臨技学術部研究班活動報告

所属：血液研究班 提出日：平成 31 年 1 月 26 日 報告者：楠木 啓史

| | | | | |
|----------|--|----------|-----------|-----------|
| 行事種別 | 基礎講座 | 行事番号 | 180022711 | |
| 開催日 | 平成 31 年 1 月 20 日 (日) | | | |
| 時 間 | 開 始 | 9 時 30 分 | 終 了 | 16 時 00 分 |
| 場 所 | 名古屋大学医学部基礎棟 3F 第 2 講義室 (所在地 名古屋市) | | | |
| テーマ | 骨髓判読 WHO 分類 2017 伝達講習 | | | |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科 20 点 | | | |
| 司 会 | 地域医療機能推進機構中京病院 楠木 啓史 名古屋大学医学部附属病院 山本 ゆか子 | | | |
| 講 師 | <p>【午前・講義】</p> <p>1. 「骨髓所見のとり方、書き方」 愛知医科大学病院 中央臨床検査部 榎本めぐみ</p> <p>2. 「WHO 分類 2017 伝達講習」 NTT 東日本関東病院 臨床検査部 後藤 文彦</p> <p>【午後・実習】</p> <p>骨髓像判読 顕微鏡実習 血液検査研究班班員 内田 一豊 (豊橋市民病院) 近藤 由香 (豊橋市民病院) 赤座 久美子 (名鉄病院)</p> | | | |
| 内 容 | <p>今回の基礎講座は 2017 年に改定された WHO 分類伝達講習として午前中に講演を 2 題、午後に顕微鏡実習を行った。午前の講義では、愛知医科大学病院の榎本めぐみ技師から骨髓所見のとり方や報告書の書き方を、NTT 東日本関東病院の後藤文彦技師からは WHO 分類 2017 の改定ポイントの講演があった。前半の講義では、骨髓像の観察方法から骨髓所見、特に異形成のとり方について解説を説明があり、次いで実際の症例の写真から骨髓所見シートの記載について、骨髓像の判読経験の浅い受講生にもわかりやすく講演をして頂いた。後半は、WHO 分類のアウトラインの概説、変更点について詳しく説明して頂いた。午後からの顕微鏡実習は、日本臨床検査技師会から提供された骨髓異形成症候群 5 症例の骨髓像を観察し、骨髓像の見方・考え方・所見の書き方について、レクチャーを行った。今回 WHO 分類の改定ポイントについて伝達講習することが出来、有意義な基礎講座となった。</p> | | | |
| 参加者 | 総数：60 名 (愛知県会員 59 名、東京都会員 1 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名) | | | |
| 共催、後援など | 無 | | | |

愛臨技学術部研究班活動報告

所属：血液検査研究班研究班 提出日：平成 31 年 2 月 19 日 報告者：藤上 卓馬

| | | | | |
|----------|---|-----------|-----------|-----------|
| 行事種別 | 研究会 | 行事番号 | 180031182 | |
| 開催日 | 2019 年 2 月 16 日 (土) | | | |
| 時間 | 開始 | 15 時 00 分 | 終了 | 17 時 00 分 |
| 場所 | スズケン名古屋支店 (所在地 名古屋市) | | | |
| テーマ | 講演 1. 平成 30 年度精度管理調査結果報告 講演 2. Aiccls から血液特殊染色について | | | |
| 生涯教育履修点数 | 基礎 20 点 | | | |
| 司会 | JA 愛知厚生連豊田厚生病院 藤上 卓馬 | | | |
| 講師 | 1. 『平成 30 年度血液部門精度管理調査報告』 【血球計数検査】国立病院機構 名古屋医療センター 棚橋 真規夫 【形態検査・凝固検査】JA 愛知厚生連稲沢厚生病院 蒲澤 康晃 2. 『特殊染色(POD,EST 染色)について』 名古屋大学医学部附属病院 亀山 なつみ | | | |
| 内容 | <p>講演 1 では、『平成 30 年度血液部門精度管理調査報告』を前半に血球計数検査・アンケート集計結果、後半では形態検査・凝固検査について報告が行われた。</p> <p>前半では、昨年度と変わって配布試料を加工血のみとした変更の理由や各項目の目標値の設定方法や機種別評価等の評価判定の方法、自動血球分析装置のシェアについて詳しく解説がなされた。アンケートの集計結果は、各血球等の使用単位について報告を行った。後半の形態部門の報告では各細胞の特徴を説明し、解説を行った。全体的に正答率が 90%以上と良好な結果であった。また、評価対象外として MDS の WHO 分類 2016 に基づいた病型分類について解説を行った。正答率を向上させるために目合わせのやり方などについて議論がされた。昨年度から取り入れた凝固・線溶項目に関する文章設問では日常業務における必要な知識に加え、検査結果の解釈についての解説を行った。検査結果の知識に関する設問では正答率が低かったため、知識向上につながる設問を今後も継続していく旨を述べた。</p> <p>講演 2 では、Aiccls から発行された特殊染色 (POD,EST 染色) のリーフレットについて解説がされた。染色キットの普及による手技の標準化等の染色キットの特徴、臨床的意義、温度管理や滴下量などの染色のポイント、標本の長期保存方法 (-80℃)、基質別の染色態度などの詳細な説明が行われた。特殊染色は、血液形態検査の基本で急性白血病などの分類診断の必要性は高い。今回のように、Aiccls の取り組みを紹介し、発行したリーフレットについて詳しく解説が出来たことは参加者にとって有意義なものとなったと思われる。</p> | | | |
| 参加者 | 総数：41 名 (会員 40 名、非会員 0 名、賛助会員 1 名、学生 0 名、 その他 0 名) | | | |
| 共催、後援など | 特になし | | | |